

第9回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成22年7月20日(火)

13:30~15:45

県庁7階 特別会議室

(出席者)

秋山委員、打本委員、加藤委員、前川委員

【議 事】

(1) 業務実績の評価に関する方針および進め方について

(2) 平成21年度業務実績および財務諸表について

吉村委員長が急遽欠席となったため、公立大学法人福井県立大学評価委員会条例第3条第3項の規定により、打本委員を委員長代理として議事を行うこととした。

平成21年度業務実績および財務諸表について、県立大学から説明があり、質疑応答が行われた。

【主な発言要旨】

1 業務実績の評価に関する方針および進め方について

資料1により事務局から説明があり、了承

2 平成21年度業務実績および財務諸表について

【教育】

(委員) 客員教授やゲストスピーカーを招聘し意欲的な講義を開講しているが、学生の参加状況はどうか。また、こういった折角の機会を最大限活用するために、講義終了後に講師を交えた意見交換やディスカッションを行うなど、教育効果を高める工夫が必要ではないか。

(県立大) 大学院を対象とする場合や一般に開放する場合などでその都度規模は異なってくるが、各講座ごとの受講者は40~50人くらいだと思う。大学院を対象とする場合は、講師の先生を囲んで議論ということはあるが、学部学生を対象とする場合はご指摘のところまではいっていないのが現状である。

(委員) その点はゲストスピーカーに期待するのではなく、県立大学側の先生が少し用意されて議論が起きるようにされると教育効果が高まると思う。

- (委員) 授業評価調査票を作られたとのことだが、どのように使う予定なのか。また、個々の教員に対して評価結果は通知しているのか。
- (県立大) これまで行ってきた授業評価と連動性がとれる形で従来の質問項目を少し整理したということである。講義科目の他、演習などでも授業評価を行い、「授業に対する総合的な評価」、「学生自身の意欲的取組み」の2つの指標を業務実績指標として時系列でお示している。また、評価結果については、自由記述欄のコメントも含めて各教員にフィードバックし、それらに対する各教員のコメントも大学ホームページに掲載し学生に知らせている。
- (委員) SNSを使ったインフォーマルラーニングを支援する取組みは非常に素晴らしいが、これの活用状況はフォローしているのか。
- (県立大) 情報教育担当の教員が継続的にフォローしており、利用者数については把握している。具体的数字は本日持ち合わせていない。
- (委員) 来年からで結構だが、何か作ったらそれについて評価するシステムが必要。その評価をこの委員会で報告していただきたい。
- (県立大) 来年の委員会には、利用状況や評価結果を報告するようにしたい。
- (委員) 保健管理センターの利用状況はどうか。
- (県立大) 参考資料9頁に昨年1年間の利用者数が掲載されているが、昨年は特に利用者数が増えたと報告を受けている。
- (委員) 中途退学の歯止めとしても期待されていると思うが、その辺りの状況はどうか。
- (県立大) 本学には「クラス担任」という制度があり、問題を抱えている学生をクラス担任が早期に発見するシステムを採っている。大学退学等については、クラス担任が学生から理由を聞いて、退学する必要がない場合には、休学を薦めたり、大学を辞めずに治療を進め、卒業を目指すよう指導する体制を採っている。
- (委員) 社会に出た学生が4～6月の時期に悩んだ場合に、母校に気軽に相談できる体制があると、卒業生にとっても心強いと思うので、そういった点への対応も考えていただきたい。
- (県立大) 離職した卒業生に対してはキャリアセンターで再就職の支援をしていくことになるが、メンタル面でのカウンセリングが必要と判断されれば、保健管理センターでケアしていく可能性はある。
実際、修士課程を卒業した外国人学生を、保健管理センターでケアした事例もある。
- (委員) 授業評価は2回実施しているとのことだが、そんなに頻繁にやる必要があるのか。
- (県立大) セメスター制を採用しているので、原則として前期の授業と後期

の授業は全く違う。科目ごとに授業評価を1回行うことになる。

(委員) 授業評価はメリット、デメリット半々だと思うが、あまり強くやり過ぎると先生が学生におもねることになる懸念がある。バランスが難しい。

(県立大) ご指摘の点は議論が行われているところだが、統計学的に言うと、学生が行う授業評価は有意な評価が得られると実証されており、それを信じて授業評価を行っている。

(委員) キャリア教育のことだが、こういう人物像を目指してこういう先進的な教育をすることとは含まれていないのか？

(県立大) 今の学生は、まず「働くということはどういうことか」とか「仕事の動機付け」を教育の中に取り込んでいかなないと社会に適應できない。1年生の早い時期から、目的意識を持って自分の人生設計ができるようアドバイスをしたり、心構えを教えていく必要がある時代になってきている。

(委員) 最近の学生を見ると、みんな非常にいい子で、優しくて、まじめで、いわゆる草食系。これではグローバル化しているビジネス界では戦っていけないと思っている。やはり自立心、自主性が必要である。

(県立大) 今の学生の特徴として、しっかりした目的意識を持って大学に入学している学生が少ない。看護福祉学部の学生は看護師になるという強い目的意識を持って入学してくるが、経済学部の学生は大部分がはっきりした目的意識を持たずに入学してきた学生が多い。そういう学生に特にキャリア設計の手助けをしていく必要があるのが現状である。

【研究】

(委員) 「重点的研究分野の推進」の自己評価をS評価にした根拠がよく判らない。昨年の評価の際にも指摘したが、学際的研究というほど学部を超えた連携が見られないのではないか。また、これらの研究は21年度から始めたばかりで成果はまだ何も出ていないのではないか。

(県立大) 説明が不足していたかも知れない。学際的研究であることについては、生物資源学部と経済学部とのプロジェクトや生物資源学部と学術教養センターとのプロジェクトがある。そういう学部を超えた連携がスタートしたということの評価したことが1点ある。

また、研究成果の点では、「生命・環境・産業」の中の「福井県向け早生小麦品種の開発と普及の際の経済的課題の調査」という研究

については、新しい品種の開発というレベルにまで到達し、いよいよ実用化という段階に来ていることを評価した。その他、「転換期の東アジアと地域経済」については、中国、韓国の研究者との共同研究の成果を著書として21年度に刊行している。

【地域貢献等・業務運営】

(委員) 昨年の評価の際に、研究支援、地域連携、国際交流に関する専門職員の養成・確保について指摘したが、実際、研究支援の事務がしっかりしていると科研費などの外部資金が獲得しやすくなる。大学運営にとって大きなインパクトがあると思うが、その辺は何か改善されたのか。

(県立大) 専門職員の養成・確保については、非常に難しい問題を含んでいる。今後、次期中期計画の検討を始める中で、プロパー職員の採用・育成については検討課題としている。設立団体である県ともよく相談する必要がある。

(委員) 公開講座のテーマについて、県民のニーズをどう把握されているのか。大学連携リーグのサテライトキャンパスには熱心に受講する市民の方が多いが、そういった方の関心やニーズをうまく把握して、できれば企画にも参加してもらえそうな組織があると良いのではないか。

(県立大) 講座の後には必ずアンケートを取っており、今後のテーマ選定に活かすこととしている。

【財務諸表等・利益剰余金の処理】

(委員) 国立大学法人の運営費交付金は従来の数%減から8%減という予算編成がなされるとの新聞報道があるが、県は県立大学への運営費交付金をここ当面どうされる予定なのか。

(事務局) 平成19年度に法人化され、この6年間は運営費交付金を毎年1%削減することとしている。今後の運営費交付金のあり方については、逼迫している財政状況もあり、平成25年度からの次期中期計画を作成していく過程で議論していく必要があると考えている。

国の方は8%削減とか報道されているが、一律8%になるかどうかも現在のところ不明である。国立大学の動向に必ず連動するものではないが、今のところ何とも言えない。

【その他】

(委員) 昨年の評価委員会での一番大きな指摘事項としては、大学として

目標を掲げてそれを実現するためのアクションプランが必要だということ。そのアクションプランを全学を挙げて協力して推進していく。そういうことを執行部が引っ張っていく体制を築いていただきたい。

(県立大) 法人化すると執行部が自由に何でもできるかということ、必ずしもそうではないと考えている。現在、次期中期計画を策定するための戦略構想委員会をスタートさせ、教職員、学生を含めて意見を聴取している。

4月に学長に就任して気が付いたことは、本学は国際化、国際的な展開、センスが少し不足しているということ。これをこれからの3年間で普通の大学並みにしてみたいと考えている。公立大学であるので、地域貢献、社会還元が第一の眼目と思うが、そこに留まらず、若者が海外に目を向けていく方向に県立大学の進路を是正したい。1つのブレークスルーとして、国際交流関係のセクションを作り、そこに国際交流の専門職員を入れて国際化を進めていくなど、いろいろアイデアは持っている。

(委員) 県立大学は非常に努力されているし、多くのことに取り組まれている印象を持っているが、こうした計画を立てていく先生とそれを受けて実行していく多数の先生方との間で足並みは揃っているのか。また、各教員の実行段階での「差」はないのか。

(県立大) 教職員の足並みが乱れ、意気込みがなかったら、自己評価でこんなに多くA評価は付かないと考えている。皆さんが相当協力し、積極的に頑張っていたいただいた結果と思っている。やはり、教員の参加意識、自分も一緒になって頑張っているんだという意識が重要ではないか。教職員のモチベーションを高めていかないと、来年の評価委員会では悪い成績が付けられるのではないかと思う。そのことを肝に命じて、教職員や学生の意見を折りに触れて聞くという機会を作っていきたいと思っている。

以上